

2016
年度

就職講演会



10月29日（土）に今出川校地で就職講演会が開催されました。

講演会は大学キャリアセンター所長、企業の採用担当者、内定を得た学生5名による3部構成で、それぞれ異なった視点から今年度の就職活動の現状報告や就職活動に役立つアドバイスをいただきました。

父母に混じって就活を控えた学生も多数出席し、会場はほぼ満席となりました。

第一部講演



同志社大学の就職状況と
キャリア支援

キャリアセンター所長

柳井望氏

金融、メーカーが上位を占め、過半数が大手企業に、求人倍率は売り手市場だが…

平素は同志社大学の教育研究活動に対し、ご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

本日は「同志社大学の就職状況」「同志社大学のキャリア支援」「ご子女との接し方」の3点についてお話したいと思います。

まず、2016年4月採用の就職状況ですが、文学部は就職希望者数533人に対して就職者数519人で就職率は97.4%、社会学部は就職希望者数が328人、就職者数が323人で就職率98.5%でした。就職活動終了後にアンケートを取ったところ、「大いに満足」「満足」という回答が合わせて90%以上ありました。

次に、どのような業種に就職しているかを見ると、同志社大学の文科系では金融とメーカーが多数を占め、理工系ではメーカーに多くの学生が進んでいます。文学部、社会学部でもやはり金融とメーカーが上位にきています。公務員や教員がこれに次ぐ就職先となっています。

では、過去10年間の統計からどの企業に就職したのかを具体的にみてみましょう。文科系ではメガバンク、証券、生保、損保。理工系では電気機器、自動車などのメーカーが上位を占めています。文科系の上位7番目には国家公務員（一般職）が入っています。

企業規模別に見ますと、文科系では巨大企業（従業員5,000人以上）が全体の26.3%、大企業A（従業員1,000人以上）が28.7%、大企業B（従業員500人以上）が8.5%で合計63.5%となり、文科系卒業生の大半が大企業に就職しています。

なお、求人倍率は売り手市場で全体では1.73倍という数字になっていますが、この数字には注意を払う必

セミナー・講座等の概要(就職支援)

資料⑦

| | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|--|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 就職ガイダンス | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自己分析セミナー、エントリーシートセミナー、企業の見方セミナー、新聞の読み方セミナー | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 業界研究、職種研究セミナー | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 仕事研究セミナー | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 企業研究セミナー・学内企業説明会 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 公務員・教員ガイダンス | | | | | | | | | | | | | | | | |
| エントリーシート講座 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 面接講座 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| SPI・一般常識模擬試験対策 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| e-careerの利用 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| キャリアセンター個別相談 | | | | | | | | | | | | | | | | |

全学向けのセミナー・ガイダンス：自己分析や業界研究・業種研究・企業研究など

個別相談：ES(エントリーシート)の書き方・面接アドバイス、就職活動の進め方、進路に関する相談全般。学年・学部問わず、受付順に対応。
※セミナー参加や相談は、京田辺・今出川いずれの校地でも利用可

要があります。業種別に見ると、金融の0.23倍に対して建設業は6.18倍、企業規模別にみると、巨大企業が0.70倍、300-999人の企業が1.23倍とばらつきがあります。厳しいところは厳しいということですので、就職先を考える時には大企業や知名度にこだわらず、間口を広げて考えておくことも大切です。

キャリアセンターの積極的な活用を

次に、同志社大学のキャリア支援についてお話しします。一言で申し上げますと、「いろいろなことをたくさんきめ細かく実施している」ということです。キャリアセンターでは、就職ガイダンスや自己分析、エントリーシート、業界研究、面接などについて様々なセミナー・講座を開催しています。個別相談には年間12,000件、一人ひとり対面して丁寧に対応しています。一つ特筆しておきたいのは、3月から企業の広報活動が解禁になると、数多くの企業の人事担当者が同志社大学まで来てくださることです。学生が会社を訪ねるのが本来ですが、この3月には今出川に740社、京田辺には460社の企業がわざわざ足を運んで企業説明会を開催してくれました。これは現在社会に出て活躍しておられる本学卒業生に対する評価が高いためであり、本当に有り難いことだと感謝しています。

また、本学学生だけが利用できるキャリア支援システム「e-career」では、企業説明会やセミナーの開催案内、企業からの求人情報、インターンシップの開催日程、先輩の就職体験記などさまざまな情報を提供しています。留学中や授業の都合でセミナーや

説明会に出られなかった学生のためにも、動画配信もしています。

見守る心と、寄り添う心

次に、就活中の子女との接し方についてお話しします。まずは見守ること。そして心配・応援していることを折に触れて伝えることだと思えます。手紙やメールなど文字にして伝えるのも一案です。もし何か相談ごとが起こりましたら、いつでも学部事務室にご連絡ください。ご父母と教職員が連携を図りながら、本人にとって最善の道を共に考えていきます。

最後に、「創立者新島襄が残した幾つかの言葉」と「同志社大学設立の旨意」をご紹介します。「一国の良心とも謂ふ可き人々を養成」するのが本学の教育理念です。このような教育理念や精神に満ち満ちたキャンパスで毎日の学生生活を過ごすうちに、それらが自然と身に付き、4年も経てば人柄となつてにじみ出てきます。私は、これが同志社大学の学生が社会や企業から高い評価を受けている最大の要因であると考えています。ご父母のみなさまにおかれましては、私たち同志社大学を信じて、ご子女の学生生活、就職活動を温かく見守ってあげていただきたいと思えます。

キャリアセンターの支援体制については20・21ページの情報もご参照ください

第一部講演



百貨店の仕事と働くということ

J.フロントリテイリング株式会社
業務統括部 グループ人事部
兼 株大丸松坂屋百貨店 業務本部人事部
藤原 恵氏

最初に

私は1989(平成元)年に同志社大学文学部英文



学科を卒業し、大丸百貨店に就職しました。1年目に梅田店外商部に配属になり、法人営業などを担当した後、人事部、マーケティング担当などを経て、2013年に本社人事部へ異動、今年9月から持ち株会社であるJFRグループ人事部発足と同時に兼務となり、現在に至っています。現在の主な業務は、新卒から中途採用、ヘッドハンティングまでの採用全般と社員研修、社員育成です。

J.フロントリテイリングは、大丸と松坂屋の百貨店事業を核とした小売事業グループで、売上高1兆1495億円、従業員1万1千人です。全国に大丸14店舗、松坂屋5店舗を展開しています。関西ではヴォーリズ建築で知られる大丸心斎橋店のリニューアル工事を進めていますし、東京では銀座六丁目の松坂屋銀座店跡地で大規模複合施設「GINZA SIX」の再開発事業を手掛け2017年4月にオープン予定です。

求める人材と採用フロー

JFRグループの採用ポリシーは、まず「好き」はエネルギー」ということです。「好き」という気持ちで取り組むとエネルギーが出ます。「好き」な仕事であれば困難な事でも乗り越えられます。この仕事が好きだということはとても大事なことです。2番目に「即戦力より伸びる力」。入社してから大きく伸びてほしい。3番目には「ともに成長する」です。社員も企業自身も一緒に伸びないとだめです。

2017年の採用フローについては、就職協定を守って3月に東京、大阪、名古屋、札幌で広報活動をスタートし、学内セミナーや会社説明会のほかHP・ナビサイトを使って情報提供を始めました。会社説明会終了後はバイヤーや販売促進、イベント企画など百貨店の仕事をよりよく知ってもらうための仕事セミナーを開催、3月20日からWebアンケート、Webテストを実施して、6月1日から面接をスタートさせました。面接は1次から最終まで4回あります。1次は4、5人のグループ面接、2次ではグループディスカッションもあります。グループディスカッションは場数を踏んで慣れることが必要ですので、いろいろな会社を受けてみると思います。3次はグループ、個人面接で、最終はJFRと大丸松坂屋の社長が面接して、内定という流れです。面接で重視することは第一印象

と対人関係、エネルギー、そして志望度です。

面接での質問はまず「学生時代に一番力を注いだこと」です。次に「企業を選ぶ軸とその理由」。2次、3次面接では「周囲の人からどんな人だと思われるか」「就職活動に取り組み中で感じたこと」などの質問が出ます。最終面接は私服指定なのですが、そこで「今日のファッションのポイント」を尋ねます。やはり百貨店なので、ファッションに対するセンス・関心は大切にしています。



2017年の就職戦線を振り返って

同志社大学からは2015年度に1名、2016年度に5名が大丸松坂屋に入社、2017年度は1名が来春入社を予定しています。年によって波がありますが、全社的には同志社大学OB、OGが多いといえます。

2017年度は、前年に比べて広報期間が短期化(3~5月)されたため、学生の側も見たい企業すべてを見きれなかったといった準備不足、不完全燃焼の状況はあったとお聞きしています。また、他社との採用活動が重複してしまい、エントリー数が約3割減少してしまっただけが弊社の現状です。

次に、一般的な状況を弊社と一緒に取り組んでいるマイナビさんの資料から見ますと、倫理憲章では選考活動は6月解禁ですが、やはり早期接触して囲い込む現状は見られました。また、全体的な状況としてインターンシップは増加しました。2018年採用でもインターンシップを実施される会社が増加する見込みです。個別企業セミナーの開催回数も増えており、2018年採用ももっと増えるの見込みです。学生がどこの企業に絞らざるを得ない状況になります。また、一次面接受験がなぜか解禁前の4月がピークだったとマイナビさんの資料から聞いております。

あまり決めつけずに視野を広げて、できるだけたくさんのお話を聞いて

最後に、ご父母、学生の皆さんへお伝えしたいことをお話しします。

米スタンフォード大学のジョン・D・克蘭ボルツ教授によって提唱された「PLANNED HAPPENSTANCE(意図された偶発性)」という考え方があります。予期しないことをマイナスではなくいいチャンスだ、転機だと捉えて可能性を広げることです。就職活動は思い通りにいかないことも多いので、ぜひこういう考え方で活動をしてほしいと思います。

生きていく上で大切なことは、「素直さ」(人の言うことを素直に聞く)、「プラス思考」(ポジティブに物事を考える)、「勉強熱心」(いくつになっても勉強する)です。仕事をしていく上で大切なことは、「体力」、「気力」はもちろん、「視座高く視野広く」、「リーダーシップ」(あの人のためなら頑張れると思われ人になる)、「スピードある実行力」(やる時は情熱を持ってスピードに物事にあたる)です。

就職活動は一生に一度、たくさんのお話を見ることができいい機会です。あまり決めつけずに視野を広げて、できるだけたくさんのお話を見て、ぜひ自分に合った企業を見つけたいと思います。

第二部講演



観光業内定
文学部文化史学科
4年次生

松永 佳野 さん

やっておいてよかった積極的な情報収集

本日は就職活動の軸とやってよかったと思うこと、保護者の皆さまへのお願いという3点について話させていただきます。

まず就職活動の軸ですが、私の就職活動は自己分析から始まりました。これまでに何があって、何が好きで嫌いで、何が得意で苦手、その苦手を克服するためにこれまで何をどのようにしてきたのか、などを考えて自分を見つめ直しました。その結果、人と触れ合うことが好きということ、そして文化史学科で学び日本が好きで日本文化で最高のおもてなしができるということ、この2つを最初の軸にしました。また、私は向上心が強い方なので、自分を高め成長していける企

業を見ていくことにしました。その際、企業が目指すものが一番よくわかる企業理念を重視しました。

次に就職活動で私が一番やっておいてよかったと思つたことについてお話しします。それはやはり積極的な情報収集です。私がやってきた情報収集の方法は大きく3つあります。1つ目が大手のナビサイトに登録して、インターンシップの情報などを早めに収集することでした。2つ目が友人、先輩と話して情報を共有することでした。そして3つ目が企業の説明会やインターンシップに足を運ぶということでした。

キーワードを探しながら企業担当者の話を聞く

私が一番お勧めしたいのは3つ目の方法です。実際に現場で感じるということは他の何にも代えがたい情報です。その際、私が気を付けていたのは、話を聞く時に何か一つ持ち帰るつもりで話を聞くことでした。先輩から「企業の方が何を言いたいのかキーワード探しをしながら聞く」と結構面白いと教わり、それを実践していました。

また、3年次生の10月頃からいろいろな視点で貪欲に情報を吸収したり、キャリアセンターのボランテアスタッフ(※)に参加して刺激をもらうようにしました。企業と早く出会えるほど、その企業を知ることその企業に自分を知ってもらう機会も増える。私は、そういう意識を持つて学内・学外の説明会やインターンシップに参加するようにしていました。その際には、積極的に質問をするようにしていました。皆さんも何か一つ定数の質問を見つけておくと思います。これは面接対策にもつながると思います。

不安だからこそ、周囲の温かいサポートを

情報を持つていけば早急に柔軟な対応ができます。もしも私が3月から就職活動を始めていたら、内定をもらうことはできなかったと思います。なぜなら内定先の企業は2月から選考を始めていたからです。それまでに情報収集を積み重ね、自己分析もこつこつやって来ていたので、2月から始まって何とかが乗り切ることができました。

情報を持つていけるということは、とても心強かったです。また、就職活動は不安だらけで、やらなければいけないこともたくさんありますから、今のうちにで



きることを少しずつやっておくとうことも本当に大事だと思えます。そして不安だからこそ周りを頼ってほしいと思います。私は先輩や友人と会うことが息抜きであり癒しでした。また、両親も心の支えになってくれました。一人暮らしなので、毎日話すことはありませんでしたが、自己分析の時には親しか知らない自分自身について教えてもらい、くじけそうな時には励ましてもらいました。金銭面でも手厚いサポートのおかげで心の余裕につながりました。

最後に保護者の皆さまにぜひお願いしたいことがあります。それは本人の話をよく聞いてあげてほしいということです。私の場合、対立したり批判するのではなく、アドバイスをもらったり、話し合ってみる時間を与えてもらったことがとても有り難かったです。お互いの意見を尊重し、話をしながら温かく見守ってもらえたら、本人もきつと納得できる就職活動ができると思います。

(※) キャリアセンターが開催する学内セミナーの運営ボランティア



メーカー内定
文学部哲学科
4年次生

瀬津拓さん

最初は業種、業界を幅広く見てみよう

まずは自身の就職活動の流れ、次に就職活動を進める上でやった方がいいこと、最後に友人と家族の関わりについてお話ししたいと思います。

私は就職活動が本格化するまで自分のやりたい仕事や志望業界がなかなか定まらずとても不安でした。そのため、企業の広報活動が解禁された3月からはとにかくたくさん会社の説明会に参加しました。いろいろな業種や企業を見れば、ここに入りたいと思えるような企業が必ず見つかると思えたからです。

具体的には80社程度、メーカーや商社、金融、IT

系企業などさまざまな業種の会社説明会に参加しました。その中で、ものづくりをする企業に魅力を感じ、選考に進んだのはメーカーを中心に30社程度でした。

この経験を通してお伝えしたいのは、最初から業種や業界をあまり絞り込み過ぎるのは得策ではないということです。特に今年には本格的な選考活動が始まるまでに活動できる期間が3ヶ月と短かったので、気が付くと説明会の受付が締め切られていることがよくありました。最初から本命以外を切り捨ててしまうのではなく、なるべくいろいろな業種の企業に目を向けた方がいいと思います。

6月上旬に第一志望の医療機器メーカーから内定をもらい、そこで私の就職活動は終わりました。就活を終えた感想は本当にあつという間だったということでした。毎日どこかの会社で面接や試験があり過密スケジュールでした。ただ、期間が短いので選考がスピーディーに進み、結果が分かるのが早いという良い面もありました。

筆記試験に備え、キャリアセンターに行こう

次をやっておいた方がいいことに関してお話しします。1つ目はキャリアセンターを利用するということです。キャリアセンターでは面接対策やエントリーシートの添削などとてもきめ細かなアドバイスがいただけます。私自身は履歴書に書く自己PRや自分の強みについて見ってもらったり、志望度の高い企業の面接の前には改めて志望理由についてアドバイスをいただきました。何か困ったことがあればキャリアセンターに足を運んでください。

2つ目はSPI(※1)の勉強です。大手企業の場合はテストセンター(※2)という形で試験が行われることが多いのですが、就職活動が始まると勉強に時間を割くことが難しくなるので、今からでも少しずつ時間があるうちに勉強を始めておいた方がいいと思います。

3つ目は自己分析です。企業ではエントリーシートが選考の第一関門になっていくかと思えます。エントリーシートでは自分がやってきたことなど自分に関するについて書



くことが多いです。当然面接でも自分自身に関する質問が飛んできますので、業種や業界を問わず自己分析をして自分に対する理解を深めておくことは重要です。

家族とは着かず離れず、友人とは息抜きを

次に就活中の家族と友人の関わりについてです。私は実家から大学に通っていますが、家族との関わり方は普段とあまり変わりませんでした。ビジネスマナーに関するアドバイスを父親に求めたことはありませんでしたが、どの企業を受けるかについては特に話しませんでしたし、家族から根掘り葉掘り聞かれることもありませんでした。就職活動をしている立場からすると、このように付かず離れずの関係が有り難かったです。

友人とは、就活中でも月に1、2回は会って一緒にご飯を食べて愚痴を言い合ってストレスを発散していました。面接や説明会だけで予定がいっぱいになってしまうと、気が滅入ってしまうと思います。就職活動にメリハリをつけるためにも適度に息抜きをするのもとても大切なことです。

最後に、就職活動は社会人としての居場所を見つけるための活動なので、学生自身のプレッシャーは大きいですが、何よりも不安だと思えます。しかし、こんなに多くの企業がうちに来てほしいと向こうからアピールしてくれるのは人生の中でもこの時期だけです。学生の方には就職活動をネガティブにとらえずに、むしろ楽しむくらいの気持ちで臨んでほしいと思います。また、ご家族の方には必要な時には適切なサポートをしながら、いい結果が出るまで温かく見守ってほしいと思います。

(※1) 企業の採用試験などに用いられる適性検査の一つ
(※2) 全国に設けられた専用の会場でパソコンを使ってSPIを受検すること



銀行内定
文学部英文学科
4年次生

横内葉月さん

実家から通えて、人の役に立つ仕事があった

私が初めて就職活動を意識したのは2年次生の終わ

り頃です。部活やサークル活動をしていなかったため、身近な先輩といえばアルバイト先の先輩方でした。その先輩方が間もなく就職されることになって初めて自分自身にとっても就職というものを身近に感じるようになりました。



そこでまずは学内のインターンシップに参加しようと考え、「キャリア形成とインターンシップ」の講義(※)を受けました。この講義では、インターンシップへの心構えやマナーなどを学んでからインターンシップに参加できるので、大変なためになりました。1、2年次生の方には、より手厚いサポートを受けられるこの講義を受けてインターンシップに参加することをお勧めします。

私は信用金庫にインターンシップへ行かせていただきました。金融機関に漠然と興味はあったものの知識はほとんどなかったため、座学で基礎から教えてもらったり営業店で実際に業務に関わらせてもらうなど、とてもよい経験になりました。

3月に入ると一斉に合同説明会や企業の説明会が始まりましたが、私は志望業界を明確に決められていませんでした。ただ、企業を選ぶ上で絶対に譲れない点は決めていました。1つ目は実家から通勤できることです。2つ目は人の助けになる仕事であることです。

自分のペースを守り、情報の取捨選択を

5月に内々定をいただいた企業もありましたが、志望度はあまり高くなかったので就職活動を継続していました。そしてこれからどうしようかと考えている時に地元の銀行から2次募集の連絡が来ました。大好きな地元で働ける機会を逃してはいけないと考え、すぐにエントリーシートを出し、Webテストを経て面接に臨みました。最終面接は私のアルバイト先の話で盛り上がり、無事内々定の連絡をいただきました。

就職活動を進める上で大切だと感じたことを2つお話しします。1つ目は周りは周りだと割り切ることです。私の就職活動は友人たちと比べると長くなり、とても苦しかったですが、人それぞれ違った就職活動をしているので、終わる時期が違うのも当然のことです。だから人と比べずに自分のペースを守るのが大事だと

思いました。

2つ目は情報の取捨選択をすることです。就活中は本当に膨大な量の情報に触れます。友人からやインターネットの情報は本当のこともあるでしょうが、中には誇張されていたり、ウソの情報も紛れ込んでいることもあるかもしれません。鵜呑みにするのではなく、取捨選択することも大切だと思いました。

自己分析、SPI対策で基礎固めを早めに

私の就職活動において悔いが残る点は、もっと早くから自己分析とSPI対策をしておくべきだったという点です。3月になると、毎日説明会に行くことやエントリーシートを書くことに追われて、じつくりと自己分析をしたり、SPIの勉強をする時間が取れなくなります。

自己分析が甘いと、エントリーシートの通過が難しくなります。また、SPI対策をしていないと、テストで不合格になり、面接まで進むことができません。土俵に上がるため、まず基礎固めをする大切さについて身をもって実感しました。

最後に保護者の方の支えについてお話しします。私は普段から母と非常に仲が良くたくさん話をします。でも家では就活の話はほとんどしませんでした。私は高校、大学受験の時も志望校についてあまり両親には話しませんでした。一番身近な存在である両親に進路について話すことが気恥ずかしかったのだと思います。そんな私の性格を理解してくれている両親は余計な口出しはせず、私を信頼して私が決めたことを尊重してくれました。

私にとってこの対応はとても有り難かったです。就活でくたくたになって帰って来て、家でも就活の話だと気が滅入ってしまいます。家では就活に関係のない話をすることがいいリフレッシュになり、前向きな気持ちになれました。人によって受け止め方は異なるかもしれませんが、干渉しすぎずに温かく見守っていただけたいと思います。

(※) 正課科目としてのインターンシップ・プログラム。実習期間は1〜2週間程度。事前講座、事後講座もある。



地方公務員採用試験合格
社会学部社会学科
4年次生
堤峻亮さん

県庁の役割を知り、早くから意識して一点突破

私は、公務員という職業に就くことを1年次生の時から考えていました。これは、親も知らなかったと思います。出身地の県庁の採用試験を受けたのですが、そこしか受けていません。筆記試験の後の面接の回数もわずか1回でした。

県庁を目指したのは、県庁の役割を2011年3月11日の東日本大震災の際に知ったことがきっかけでした。復旧・復興の対応に追われる被災地の市町村をそれぞれの県庁が統括して、関係自治体の調整をしたり、物資の支援を行ったりしていました。そうした県庁の役割の重要性を認識したのが県庁を志望した大きな理由です。

公務員試験が民間企業と大きく異なる点は、後にも述べますがたくさんの科目数の筆記試験があることです。民間企業でもSPIなどの筆記試験はありますが、公務員試験の準備はその大部分が筆記試験に充てられます。

公務員試験にも民間企業と同じように面接試験があります。違いは志望動機くらいでしょうか。面接では特定の事柄に対して「いつ、どこで、何を、どの様に、なぜ」と根掘り葉掘り尋ねられます。

公務員を志望する人は、私も含めて面接が本当に苦手だと思います。練習はしますが、突っ込んだ質問をされると言葉が出なくなります。なぜかというところ、公務員試験では筆記試験が重要なため、その対策に追われて面接の準備が不十分な状態で臨んでしまうからです。

筆記試験も大事だが、面接対策にも取り組もう

私が失敗したと思う点も、筆記試験に重きを置きすぎて、面接対策までなかなか手が回らなかったことです。公務員を目指す方は、筆記試験も大事ですが、面接対策も早い段階から取り組むことをお勧めします。

私が公務員試験の勉強を始めたのは3年次生の4月からです。1年間やってもすべての科目の勉強はでき



ませんでした。
 というのも、筆記試験の科目数が30科目もあるからです。しかも主要5科目といわれる「憲法、民法、行政法、経済学、数的処理」があり、これまで馴染みのない科目です。また、国語、算数、理科、社会などは教養試験として別の試験があります。

私は学内の公務員志望者対象の講座を受講して公務員試験の勉強をしていました。最初は200人ぐらいいた受講生の姿を終盤はほとんど見かけなくなりました。主要5科目でつまずいて忽然と姿を消すのです。このことから筆記試験がいかに難しく、同時に重要かが分かってもらえると思います。

自分にはウソをつけないという気持ちで就活を

公務員を目指す上で、筆記試験を通るのは当たり前のことです。筆記試験は点数なので、とにかく勉強するしかありません。だからこそ私は、その次に来る面接が大事だと思います。

面接ではその時々、時事問題など知っていないと答えられない質問もあります。行きたいところが決まったら、どういう形態があるのか、集団面接かグループ討議か、早めに調べて準備しておくことが必要です。

家族に求めることですが、私が世話になったのは交通費です。民間では最終面接になると交通費が支給される企業もあるようですが、公務員試験では一切交通費が出ません。就職活動中は神経質になりやすい時期ですので、特に金銭面でしっかりサポートしてもらえると有り難いです。

最後に、面接ではとにかく面接官の受けをよくしようとして「御社が第1志望です」とか「御庁が第1志望です」とか言いがちです。でも、自分にだけはウソをつけません。こういう会社に行きたい、こういう省庁に行きたい、という思いを大切に、「ここだけは譲れない」という自分のポイントを見つけて就職活動をしてほしいと思います。



教員採用試験合格
 文学部英文学科
 4年次生

尾村 早織さん

教員の夢を実現するため、英語教育のゼミで学ぶ

私はまず、教員を目指したきっかけ、経緯についてお話しします。私が教員という職業を最初に意識したのは小学生の時でした。小学生の頃に「私もこんな先生になりたいな」と思った時から私の教員へのあこがれが始まりました。

そして絶対に英語の教員になるんだという夢を実現するため、2年次のゼミ選択の時から英語教育について深く学ぶゼミを選び、その後3年間、専門的に学んできました。

私は生徒の英語力の向上を支え、役立つ、自ら学ぶような授業をしていきたいと考えています。そのような思いからゼミではペアワーク、グループワークについて専門的に研究してきました。そして現在はその集大成として卒業論文を書いています。

次に私の就職活動についてお話しします。教員になるためには教員採用試験を受けますが、47都道府県、各政令指定都市で試験の内容は全く違ってきます。もしこの中に教員採用試験について考えている人がいるなら、自分の目指すところがある試験をしているかをまず調べてほしいと思います。

実際にどんな試験があるかという点、私はまず専門である英語の試験を受けました。また、教職教養という試験もあり、これは教員が身に付けなければならぬ教育に関する法律や子供の成長に関わる知識を問う試験でした。

また、ゼミでプレゼンやディスカッションを行っていた経験が教育実習などで生徒たちの前で話す時にも役立ちましたし、実際の採用試験でのグループディスカッションや面接、模擬授業の際にも非常に役立ちました。

対策講座で同じ志の仲間と出会うことができた

私が教員採用試験の勉強を始めたのは3年次生の春でした。自分では早めにスタートして計画的に勉強を進めているつもりでしたが、もっと早くできたのではな

いかという思いがいつもどこかにありました。ですので、今日来られている学生の皆さんには、民間企業、公務員、教員問わず勉強はいつでも始められるので、できたら今日から勉強や自己分析を始めてほしいと思います。

次に教員採用試験に向けて大学で取り組んできたことについてお話ししたいと思います。私は主に3つの講座に参加してきました。1つ目がちょうど1年前に行われた論文の講座です。2つ目が3年次生の春休みに行われた自主学習会、そして最後が4年次生の春学期に行われた教員採用試験の対策講座です。これらの講座ではそれぞれ教員採用試験に特化した論文の書き方や教職教養の問題を解きました。

もちろんその内容について勉強することも役に立ちましたが、一番よかったことは、同じ教員という志を持つ仲間に出会えたことでした。

教員採用試験は民間企業とスケジュールが異なりますので、どうしても周りと自分を比べてしまつて、周りは内定が出ているのに自分は試験すら終わっていないとか来年の今頃自分はいつたどこで何をしているのだろうとか不安や焦りを感じることもありました。でも講座で出会った同じ志を持つ仲間と「あれだけ頑張ったから大丈夫だよ」と励まし合ったり、「ご飯一緒に食べに行こう」と誘い合うこともでき、仲間と出会えたことが非常に心強かつたと今でも強く思っています。

私の性格を理解して、見守ってくれた両親に感謝

最後に両親について話します。私は故郷を離れて一人暮らしをしていますので、毎日両親と話をすることはできません。でもメールや電話で両親とコミュニケーションをとるようになっていました。両親は教員について専門的な知識がないので具体的なアドバイスはもらっていませんが、私が何か1つのことに夢中になつたら周囲が見えないという性格をよく理解して私のことを見守ってくれたのは非常に有り難かったです。自分の夢を理解して、応援してくれているということが私の大きな支えになりました。ここにいらつしやる父母の皆さんも、信頼して見守っていただけたら私たち学生にとつて嬉しいことだと思います。

